

DICOMO2013 論文フォーマット

情報 太郎¹ 処理 花子^{†1}

概要: このパンフレットは、DICOMO2013 に投稿する論文の最終版を、日本語 L^AT_EX を用いて作成し提出するためのガイドである。このパンフレットでは、論文作成のためのスタイルファイルについて解説している。また、このパンフレット自体も論文と同じ方法で作成されているので、必要に応じてスタイルファイルとともに配布するソース・ファイルを参照されたい。また、本スタイルファイルの元になっているのは、情報処理学会論文誌用のスタイルファイル（<http://www.ipsj.or.jp/journal/submit/style.html> からアクセス可能）なので、L^AT_EX コマンドの詳細などについては、それらを参照されたい。なお、論文フォーマットについては、上記の原稿執筆案内に記載されたフォーマットではなく、本フォーマットをご利用いただきたい。

DICOMO2013 Paper Format

JOHO TARO¹ SHORI HANAKO^{†1}

1. 論文フォーマットについて

ページ数の制限は設けない。フルペーパーに相当する論文を基幹論文誌推薦の対象とする。また、DICOMO2013 より、和文原稿において英語のアブストラクトは記載しないこととした。

その他の本論文の体裁については「情報処理学会論文誌 (IPSJ Journal) 原稿執筆案内」(<http://www.ipsj.or.jp/journal/submit/ronbun-j-prms.html>) に準拠する [1]。なお、DICOMO 2013 向け原稿に関する特記事項として、以下に留意いただきたい。

- 使用するファイルは、

`dicomopapers.cls`

である。これは基本的に、`ipsj.cls` を、ヘッダーとフッターを出力しないようカスタマイズし (但し `dicomocommon.cls` は、情処で配布されている `ipsj.cls` と等価)、情報処理学会の許諾の下で配布するものである。

- `documentclass` の設定は、

```
\documentclass{dicomopapers}
```

とすること。

- biography セクションは、記述しないこと。

著者も含め、予稿集作成に関わる全ての人々の労力を軽減するためにも、原稿を作成する前に 上記執筆案内を良く読んで規定を守っていただきたい。

なお、これらスタイルファイルについて、情報処理学会に問い合わせることはしないこと。 また

DICOMO2013 運営委員会としても、基本的に

サポートはおこなわないので、悪しからずご了承ください。

参考文献

- [1] 情報処理学会論文誌 (IPSJ Journal) 原稿執筆案内, 入手先 (<http://www.ipsj.or.jp/journal/submit/ronbun-j-prms.html>) (2013.03.28).

¹ 情報処理学会
IPSJ, Chiyoda, Tokyo 101-0062, Japan

^{†1} 現在、マルチメディア、分散、協調とモバイルシンポジウム運営委員会
Presently with DICOMO2013